

学位論文審査結果の要旨

専攻名	システム工学 専攻	氏名	CHAN SENG KEE
学位論文題目	PLANNING, DESIGN AND MANAGEMENT OF PUBLIC NURSING HOME IN SINGAPORE (シンガポール国における公的ナーシングホームの計画、設計、運営)		
主査・副査	主査	加藤 彰一	㊞
	副査	浦山 益郎	㊞
	副査	富岡 義人	㊞
	副査	大月 淳	㊞

審査結果の要旨

ある国の保健医療システムは、その国の政治、社会、経済システムの影響下にあり、国家として歴史がないシンガポール国では、保健医療施設の整備が優先されてきたわけではない。しかしながら、シンガポール国も日本と同様に高齢社会を迎えており、高齢者関連の保健医療施設、特にナーシングホームの充実が急務の課題となっている。都市国家として国土には限りがあり、諸施設の高層化が求められており、多民族国家として多様化への対応が必要であり、高齢者の介護職員は外国出身者である。こうした状況下に 300 床の 7 階建て精神科ナーシングホームの計画・設計・建設プロジェクトを行うことになり、その課題に対して、本研究は、工学的に取り組んだものであり、建築性能評価法（BPE）などの各種の調査や、ユーザー参加法などの計画設計技術を用いた、把握・分析・提案方法を提示している。本論文の構成は、下記のとおりである。

第 1 章 「序論」では、本論文の背景、対象国の概況、本研究の目的と方法を示している。

第 2 章 「日本のナーシングホームや医療施設の状況」では、個室で構成されるユニット型特別養護老人ホームを中心に調査を行い、その特徴を病院の多床室と比較して分析している。

第 3 章 「シンガポール国における既存施設の状況」各種の類似施設の調査から、大規模な総室の問題や、食堂等の共通施設の課題、移動手段としてのスロープの可能性などを分析している。

第 4 章 「新しい 300 床 7 階建て精神科ナーシングホームの事例研究」では、ユーザー参加による計画・設計手法として採択された、シナリオに基づくチーム設計法（SBTD）の進展状況を、作成された多くの構想図面を示すことで分析・考察し、結実された平面形状や階層構成の特徴、6 床室や 6 層スロープ、ヒーリングガーデンなどの特徴を考察している。

第 5 章 「結論と提案事項」では、目的の達成度合いを分析し、既存施設の評価方法と次の計画につなげる方法の提案として結論を述べ、今後の展望と課題を示している。

以上示したように、本論文で得られた知見と成果は、学術的のみならず実用的にも優れ、建築計画学と環境行動研究分野の発展に十分に寄与していることから、博士（工学）の学位に値するものと判断した。